

令和5年度 移動等円滑化評価会議中部分科会 議事録

開催日時:令和5年8月1日(火) 14時~16時

開催場所:名古屋合同庁舎第1号館 11階共用大会議室

【中部運輸局長挨拶】

本日はご多忙の中、「移動等円滑化評価会議 中部分科会」の第5回会合にご出席いただき、誠にありがとうございます。皆様方には、日頃より国土交通行政について、格別のご理解とご協力を賜り、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

この分科会は、中部地域におけるバリアフリー施策を進めていくにあたり、関係者の皆様に継続的に、ご評価・ご助言をいただく貴重な場でございます。これまでも、皆様には積極的にご参画いただき、頂戴したご意見を順次反映していくことで、当地のバリアフリー化は着実に進んできたと思います。取組の推進力として、ご貢献いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

私自身、2000年に交通バリアフリー法が新法として制定された際、法案作成のチームに籍を置いておりました。バリアフリー化の意義の説明や、周辺施設を巻き込んだ枠組構築の設定に知恵を絞っていたことを思い出します。

あれから20年、駅やターミナルにおけるバリアフリー化の進展はめざましいものがあり、関係者の皆様のご尽力に深く敬意を表したいと存じます。私自身も年をとり、上下移動に負担を感じる年齢になり、バリアフリー化のありがたさを実感する今日この頃です。

さて、本日の会議ですが、大きく2つのテーマがあります。1つ目は、新しい「バリアフリーの整備目標」についてです。計画期間は2021年度から始まっておりますが、その初年度分の実績集計が完了いたしましたので、進捗状況をご報告いたします。

2つ目は「観光とバリアフリー」についてです。岐阜県様が取り組みを進めておられる、すべての人が楽しめるよう創られた旅行「ユニバーサル・ツーリズム」について、ご紹介をいただきます。岐阜県では、高齢者や身体障害者、妊産婦、お子様連れを含む移動に負担をお持ちの皆様が、安全に、安心して、かつ快適に旅行できるような環境づくりが進められています。これは、人口減少・少子高齢化時代において、旅行需要の拡大を図る意味でも大変貴重な取り組みでございまして、大きなヒントをいただけるものと考えます。

その後、観光についての意見交換も予定されております。限られた時間ではございますが、ご参加の皆様方より、忌憚のないご意見をいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

資料1から資料3については資料配付のみ(説明割愛)

【中部運輸局 交通政策部バリアフリー推進課】

資料4「中部運輸局の取組」について資料に沿って説明。

【中部地方整備局 企画部企画課】

資料5「中部地方整備局の取組」について資料に沿って説明。

【磯部座長】

はい、ありがとうございました。資料1から3は資料配布という形ですけど、4と5は今説明がありました。それ以外で何か追加でご意見とかご質問ございますでしょうか？皆さんとWEBの方も含めまして少し議論したいなというところがございます。資料1から5に関係するお話で追加すること、また更に何か聞きたいことがあれば発言をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか？WEBの方もいかがでしょうか。(なかなかご意見出ず)

では、私から資料1の大事なところをご紹介します。後からも出てきますが、資料1の3ページで2025年に向けて新しい目標が書いてあります。ある程度できているもの、やっぱりできてないものもあるなということで、例えば鉄軌道の案内設備というのが、まだ77%なので100%にしたいなということでもあります。

それはいろんな方々が、やっぱり案内がほしい、でもどうの中身が欲しいかというのは、いろいろ議論がある所でございます。鉄軌道車両はやっぱりどうしても、そう簡単に取り替えることができませんので、時間がかかってるなということもございますが、車両も大きい話です。

次に4ページのユニバーサルデザインタクシーですよね。

新しい車両を買いだいたいんですけど、タクシー会社の都合や、タクシーの生産のスピード(新しい車を作るスピード)も課題があるので、早くいい数字になったらいいかなと思うが、それがまだ出来てないので、この数字は今後更新されるかなと思います。

あと、この中部管内のバリアフリーの整備が、少し遅れているところがあるかなという感じでございますが、鉄道がかつては一日乗降者数が5000人以上という駅が対象でありましたから大きい駅ではかなりやっています。それが2000人以上でもやりましょうといったときに、ちょうどこの中部管内は結構(そういった駅が)多いんですよ。これよりも下になってくると、今度は鉄道がなくなっていくということがありますけど、まだ中部地方はなくなるまで行かないので、利用者数が少なくはないんですけど、進んでるわけでもないという形で、全国よりはちょっと遅いかなということもございますけど、鉄道会社さんがというよりも、行政とかみなさんの方で、そういった今までの(大きな)駅でなくて、普段お使いの駅でもっとバリアフリーになったらいいなというのがこれから取り組みかなということになります。

みなさんの方で何かありますか。それじゃ中井さんお願いします。

【NPO 法人 子育て支援の NPO まめっこ】

NPO 法人子育て支援の NPO まめっこの中井です。差し替え資料で今日頂いている資料1と3が、どこが変わったのかがちょっと分からなくて、こちら説明をしていただいてもよろしいでしょうか？

【磯部座長】

事前に配られた資料と今日配られた資料の違いですね。それはわかるといいなと思いますが、いかがでしょうか？

【事務局】

はい、事務局です。資料1の方は、3ページに誤字があったということで、可能な限りというのが、連続していますというご指摘をいただいてしまったので、そのところを修正したのになります。資料3の方は、6ページ目ですね、ここに豊橋鉄道及び名古屋鉄道については鉄道軌道の取り組み計画をそれぞれ策定済み、という文言を追加させていただいています。上の表と数が合わなかったの、理由を書いたほうがいだろうということで、その一行追加させていただいております。以上です。

【磯部座長】

ありがとうございます。この1から5に関して何か(ございますか)。ご所属とお名前をお願いします。今マイク行きますのでお願いいたします。

【名古屋市 健康福祉局 障害福祉部 障害企画課】

名古屋市ですけれども、すみません資料5に関してなんですけれども、資料5の4ページですね。中部地方整備局さんの事例があるかと思うんですが、設計段階からワークショップを開催されているとのことでお話がありました。

私も名古屋市でも、いわゆるバリアフリーを進めていくにあたって、建物を新築する場合ですとか、改築する場合ですとか、こういった当事者の方に参加をしていただいて、ご意見を聞いていくってことがとても重要だと思っておりますが、そういった部分がなかなか実施できていないといいますか、あくまでも望ましい取り組みという中で、市の中でも本当にたくさんの整備が毎年進められるんですけど、なかなかですね、その部分で、例えばこういったものについて、どういうふうに進めるかっていうことが、なかなかこの市の中でルール化ができてない、結構課題としてあるかなということでございまして。

中部地方整備局さんがどのように行われたとかですね、例えば今後どういう方向性でこういうことを進めていくとか、なんかそういうものを内部的に取り決めていらっしゃるような事があれば、参考にさせていただければと思います。何かあればと思います。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。どういった経緯でされたか伺いたいということですね。じゃあ中部地方整備局さんの方からお願いします。

【中部地方整備局 企画課】

それはたくさんのご意見が出る中でこういったものを拾っていくとか、そういうことですか。

【名古屋市 健康福祉局 障害福祉部 障害企画課】

失礼いたしました。私どもとしては、名古屋市の現状で申し上げると、整備にあたって、当事者の意見を聞けるものは全部聞いていきたいんですけども、例えばすべてのものを聞くというふうなルール化が、今はできてない。それは、数が多いということもあると思うんですけど、ただ、そうするとやっぱり漏れてしまうものが出てきたりして、なかなかその対応に、後からやろうと思うともう大抵終わってたりするということで、なんかルール化を図っていく必要があるのかなと、私いま漠然と考えているんですけども、今回実施をされたということで、例えば、今だと参加者がなぜここで実施したのか、例えばどういうことを実施するとか、そういうものを持っているのであれば、と思います。

【地方整備局 企画課】

私の方で開いたという結果しか受けていないものですから、ちょっと経緯につきましては、確認いたしまして、またメールか何かでご回答させていただきます。

【磯部座長】

名古屋市さんでも、たしか、区役所の建て替えとかでやってはいるんだけど、どうしようかっていうのを、ちょっと悩んでということ。愛知県さんはそういうルールを作って、愛知県の建物はやることになっていますよね。はいじゃあ、山田さんの方から。

【社会福祉法人 AJU自立の家】

AJU自立の家の山田といいます。トイレのことで、今もう増えてるんですけど、例えば名古屋市の場合だと区役所、とりあえずトイレできました。できた時はギリギリのスペースでしたけど、そのあと色んなものが追加してくるんですね。そうすると、電動車いすが入るともう身動きが取れない。入ったらそのまま出てくる。回転もできない。例えばベビーベッドあるいはオストメイトは、後で追加されてくるととても狭い。僕今日ここへ来て、トイレに行きました。車椅子トイレあります、確かに。でもこれはもう大昔のトイレ、本当に。便座に座ると手すりが届かない。これは本当に初期の段階の大昔のトイレで、しかも(奥行きが)長い。これはまあ一時期流行ったんですけど、そういうこともある。ですから、そういう面ではトイレっていうのはとても大きな問題があるという事が一つ。

それから今日局長さんが観光の面であつて言われたし、この間テレビでも拝見しまして、お話が伺えればと思つてきたのですが、この間福井に行ったんですね。実は福井にお墓があるものだからお墓参り、で、お墓参りはそんなに時間かからないので、どこか大野に行こうか勝山に行こうか三国に行こうか悩んで、観光相談施設に行ったんですね、観光案内所に。ほとんど福祉の情報を持っておられません。だから、これは資料持ってきましたけど、これも、今、新幹線の工事でどこがどうなっている(かわからない)ぐらい、くちゃくちゃなところを通過して、勝山行く電車の時刻表をもらってきました、あ、バスの。京福バス。で、大野行くならノンステップバスが確か一本あつたと思つて見たんですけども、時刻表もらつても、わけわからん。福祉情報がほとんど載つてない。これが現実です。

ですから、これから観光するのはどんどんどんどんいわゆるバリアフリー化されてきて動きやすくなつてきた。これは事実。僕66年間障害者、車いす乗ってますからわかるんですけど、66年前と今と比べると本当に月とすっぽんです。そのぐらい良くなつてきました。でも、観光でどこか行くっていうことは、県外から来る人がとびきり多いわけですね。

例えばついこの間沖繩行きましたけど、どこにトイレがあるかっていう情報っていうのは、どこに行つたらいいかわからない。あそこは飛行機で行くから飛行場にそういうものがちゃんと整つてそういうガイドマップなりそういうものがあればいい。

つまり、これからの時代は観光っていうと県外から来る、あるいは海外から来る。特にまあ海外が多くなるんだろうと思つてんですけど、この辺のソフトの対応っていうのをきちつとやらないと、本当に困る。結局、どこもいけなくなつてくる。もう早く帰ろうっていう。

そして、しらさぎに乗ろうとしたら、敦賀まで(新幹線が)通つたら来年？違いますか？在来線がなくなる、特急がなくなるって言われて、しらさぎもなくなるのかなと思つながら、帰つてきましたけれども、そうなるとう名古屋と北陸っていうのは、全く分断されちゃいますよね。そういう面でも観光っていうのは中部地域で言えば、北陸と中部っていうか名古屋・東海は一体であるべきだろうと思つし、この昇龍道とかこのように言つておるんだつたら、やっぱりもう少しその辺の問題っていうのをきちつと整理してほしい。

だから車両についても、あれは車両の横にJR東海とは書いてないんですね。JR西日本って書いてある。つまり西日本の車で、東海道はJR東海っていうのは、米原の手前までしかない。ここから先は西日本になる。だから、JR東海は何も言えませんって返つてきたと思つてんですけど。

そのように、ハードの面もそうですけど、僕はこれからはやっぱり県外へ出かけて行った時にどこに行くって言つたら、駅の観光案内所に行ったときに僕の体験から言うと、福祉情報はほとんどないんです。それで満足して「ああよかった」と思つた経験は僕は一度もない。是非そういうところについての取り組みを、各自治体がやっていただけるとありがたいなというふうに思つております。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。今日の後半では観光を中心にやりたいと思いますので、また議論しましょう。資料1から5に關係して何かありますか？WEBの方もよろしいですか。では村井先生から何かひとつ頂けませんか？

【村井先生】

はい、日本福祉大村井です。そうですね。資料4とか資料5で、中部運輸局さんが取り組みをされていて、コロナもあけてきました。こういうことがどんどんしやすくなっていくのかなと思いますので、更に進めていっていただくといいかなと思うんですけども、こういう風な活動があって、それがその後どうなったかっていうところが一つ大事かなと思います。例えば、小学校でそういう体験やった後、小学校ではどういう展開がされたのか？ある場所でやったら、その後どういふ展開がされたのかっていうように、そこまで追いかけていただいて、そうすると取組とかやり方とか、こうすれば展開し続ける、こういうやり方だと単なる体験で終わってしまうみたいな、そういうようないろんなノウハウもたまっていくと思いますので、そんな感じでして頂けると、とてもいいかなと思います。どうしてもバリアフリー体験というところ、体験イベントで終わってしまうのが一番もったいないので。そのあたり、ちょっと感じました。私は以上です。

【磯部座長】

はい、ありがとうございました。取り組みはいいんだけども、その後どうなったかですね。そういう意味で言うと、さっき言ったバリアフリー教室は、關係した人には、先生も子供たちもいますしね。半年後ではなく、一年後、二年後どうなったかは私も知りたいなと思いましたし、もう一つ言いますと、資料3で、ハードソフト取り組み計画というのをいろんな交通事業者さん中心にやってもらっているんですけども、これなんかもその後の取り組みというか評価を、誰がするかという議論はありますけど、ただやりましたっていうだけじゃなくて、だんだん評価に繋げられるといいかなと思いました。会社別にやっていくのか、全体を通して見て行ったほうがいいのか、これからそういうことを検討しないといけないかなと感じました。

今日いただいた意見の中でまだ答えの出ないところは、後日事務局の方にまとめていただいて、皆さんの方に配布するという形にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。歩道についてのご発言でございますので、山田さんお願いします。

【社会福祉法人 AJU自立の家】

はい、歩道について、スロープがもうめちゃくちゃバラバラで、地方に行けば行くほど。一般企業の車庫に入るため、道路をスロープにしてありますね、僕一度、この車いすで横へでんぐり返ったことがある。今日の新聞だったかな、道路に(ある)スロープの板、自動車用のね、あれは違法だっというようなことが、たしか新聞に出てたと思う。でも、ぼくらにとってはフラットな道路ってというのは絶対必要なわけです。そのときたまたま信号のすぐそばだったから、こと無きを得て、赤だったから。で、ひっくり返ると、一斉にみんながわーっと助けにきてくれる。こういうのは素晴らしい。でも転ばないようにするのが、いわゆるユニバーサルデザイン。

それから、前から人がくると、絶対にすれ違えないような歩道が、この地域にもいっぱいあって、僕それいっぱい調査しようっていうことで準備をして、なかなかコロナでやれなかったのので、この秋にやろうと言う事の計画を立ててますけれども、そのようなことで、そういう道路の基準っていうのを、作っていただけるといいな。少なくとも、最低どのぐらいいるのか、少なくとも傘を差して一般の人がすれ違えるだけの幅はいるんじゃないかっていう思いがひとつ。あるいはスロープの、もちろんその道路によるだろうけど、車道の高さ、歩道の高さによって、この車道までおろすスロープっていうのがめっちゃめっちゃです。バラバラで。これをやっば統一していただきたい。少なくともこれはダメだっというのがあるはずなんですけども、もうそんなことは地方に行けば行くほど、統一性なんかみておらないっていうことは現実としてある。

堤防の坂道のところに行くと、ドドドドッと寄ってっちゃう、こういう経験は何度もあるんですね。僕は新川というところの川岸に住んでおるので、河原を通るんですけどもそういうようにとても大事。

もう一つは、舗装ですね。百貨店だとか名古屋駅のようにきれいなタイルのところならいいけど、御影石を細かく切ってつないだガタガタの道に行くと、我々は本当に困る。一番いいのはアスファルトです。アスファルトで行けるところがいい。だから僕は御器所から桜山の方に向かって、ちょうど中間まで毎日のように行っておるんですけど、一本中の道を通っている。なぜか、歩道と車道の区別がない、しかもアスファルトで、ガッタンガッタンしない。20cm角ぐらいのタイルっていうんですか、石でやってある道は、車椅子で通ると非常に歩きにくい。ですからアスファルトのところを歩いていくってことをやっています。

僕は歩くことについては段差がなければ健常者以上に行く。年齢以上に自由に歩ける。だけど手動の人にとってはいつもこう。僕も昔言われました「なんであんたは道路の真ん中ばかり歩くの？」これはもうどうしようもない。手動の人が一番大変だっていうことを理解して。僕は電動の車だったから雨が降っても、操作して傘差していってます。でも手動の人は、カッパを着なきゃいけない。時々地下鉄で駅員さんが障害者にカッパを着せておるのを見ますけど。

というように、道路のありよう、移動の環境。これをやっぱり根本的に直す。僕自身は、いいと思うんだけど、アスファルトが一番歩きやすい。車いすにとって。これで平らであれば全く問題ない。ただ問題は工事した後、削ったあと、ベタベタなる、ガッタンガッタンなるっていうことがありますけれども、とにかくアスファルトが一番歩きやすい道路であるっていうことだけ認識していただけるとありがたいなあと思います。

【磯部座長】

はい、道路のあり方ですね。まずは平坦性、そのスロープをどういう風に付けるか。これは車用、人間用両方ですね。そして、歩行者空間の幅をどれだけ用意したらいいか。最後は材質ですね。いろんな課題が今述べられたので、今日でなくていいので、整理していただければと思います。道路構造令などの基準上の話と、実際、道路をいつどうやって直してるか、その両方だと思いますので。要するに基準はできてるけど、実際、施工ができてないという事例がある。そして最後、実際の道をどういうふうに皆さんお使いになっているかですね。皆さん、どういうふうに実際お使いになっているかっていうのは、やっぱり調べて、作っただけで自己満足にならない。上手く使えているか、皆さんどう困ってるか、やっぱりきちんと調べてもらった方がいいかなと思います。まあこれは、宿題としてください。お願いいたします。

ちょっと時間も過ぎてしまいましたので、今までの話はこれまでとしたいと思います。次に、次第にはなかったんですけども、バリアフリー料金という制度ができましたというふうに聞いておりますけど、東海旅客鉄道株式会社いわゆるJR東海様の方から、これについての報告をお願いいたします。

【JR 東海】

JR 東海でバリアフリー関係の所管箇所にも所属しております渡邊と申します。

本日お時間をいただきまして、鉄道駅バリアフリー料金制度の届出概要についてご説明させていただきます。

弊社は、バリアフリー設備の整備を推進するにあたり、2021年12月に国により創設された、都市部において利用者の薄く広い負担も得てバリアフリー化を進める制度、いわゆる「鉄道駅バリ

「アフリー料金制度」を活用することとし、昨年11月に本制度を活用するにあたり、中部運輸局へ届出を行いました。

本日は、弊社における本料金制度の届出の概要とその進捗状況について中部地域の皆様への説明機会として、この場をお借りし、ご説明させて頂ければと存じます。

それではまず届出の概要ですが、資料の一枚目をご覧ください。

「バリアフリー整備計画」として、計画期間は、2021年度から2030年度の10年間、整備方針は、ホーム可動柵5駅16番線の整備や、ホーム可動柵やエレベーター等のバリアフリー設備の更新・維持管理等、です。総整備費は、約305億円です。

なお、5駅16番線の詳細は、表に記載の通りです。

在来線においては名古屋、金山、千種、大曽根の記載番線を対象に整備を進める方針としており、直近の状況としましては、2021年度に金山駅東海道本線の4番線への設置を完了。名古屋駅においては5番線から8番線の工事に着手しており、2023年度に東海道本線下りの6番線、2024年度に東海道本線下りの5番線、2025年度に中央本線の7・8番線での使用開始に向け工事を進めております。

次に、料金設定です。

本料金制度の活用に伴い、バリアフリー設備に要する費用の一部をお客様にご負担いただきます。料金收受エリアにおいて、表に記載の通り、普通旅客運賃について10円、定期旅客運賃については一月あたり300円の料金を旅客運賃に加算いたします。小児は、旅客運賃に料金を加算した大人の半額となります。通学定期旅客運賃には加算いたしません。

続いて、料金を收受させていただくエリアについて、ご説明します。

「都市部において利用者の薄く広い負担も得てバリアフリー化を進める」という本制度の主旨を踏まえ、在来線は、名古屋駅を中心としたオレンジ線で記載した範囲の各駅相互間、新幹線は、東京駅から品川駅間、豊橋駅から岐阜羽島駅間、京都駅から新大阪駅間の各地区における各駅相互間、とさせていただきます。

料金を收受させていただく開始時期ですが、名古屋地区については、2024年4月1日からを予定しています。なお、東京地区と関西地区はJR他社の同制度開始時期にあわせ、東京地区は昨年3月18日から、関西地区は今年の4月1日から既に收受を開始しております。

以上が届出の概要となります。

次に、資料の2枚目をご覧ください。進捗状況について、制度に定められた提出様式に沿って、説明させていただきます。

まず、2021年度のバリアフリー整備等実績から説明いたします。本年度の整備費についてですが、これはホーム可動柵の他、エレベーターのような段差解消設備や発車標といった案内設備等のバリアフリー設備の更新・維持管理にかかった費用を計上したもので、その合算額として、33億1千7百万円を計上しております。

本年度に供用開始した整備完了実績については、ホーム可動柵について2駅3番線を整備し、内訳は、新大阪駅の21、22番線、金山駅4番線です。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数は先ほど申しましたホーム可動柵3番線です。

料金収受額は、本年度は開始していないため、収受額はございません。

続いて、資料の3枚目をご覧ください。2022年度分についてご説明いたします。

2022年度につきましても、ホーム可動柵整備や、エレベーター等のバリアフリー設備の更新・維持管理を実施した分を計上致しまして、23億3千9百万円です。

本年度に供用開始した整備完了実績については、ホーム可動柵について1駅1番線を整備し、内訳は、新大阪駅の20番線です。

料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数は先ほど申しましたホーム可動柵1番線です。

料金収受額は、0百万円となります。これは、東京地区のみ、かつ3月18日から収受を開始したところから年度末の31日までの僅かな期間であったことから、収受額は、数十万程度であったため、このような記載となっております。

説明内容は以上となります。

なお、この度ご説明した内容は当社HP上にも公表しております。また、整備実績につきましては来年度以降も当社HPにて毎年6月末に前年度分について掲載し、公表してまいります。引き続き、本制度を活用しながら、バリアフリー設備の整備を進めてまいります。

JR東海からは以上でございます。

【磯部座長】

はい、ありがとうございました。申し訳ありませんが、議事の都合上質疑応答時間をお取りできませんので、ご質問等ございましたら、後程事務局の方にお寄せいただいで、またまとめていろいろとJRさんと意見交換ができればいいかなと思っております。それでは議事を進めさせていただきます。次は資料6をもちいまして、岐阜県の取り組みをご紹介いただきたいと思えます。岐阜県のご担当者の方をお願いします。

【岐阜県国際政策課】

はいよろしく申し上げます。それでは私から岐阜県のユニバーサルツーリズムの取り組みについて発表させていただきます。二ページ目をお願いします。

本県では、平成28年度からユニバーサルツーリズムに関する事業を開始しております。事業の目的としては、誰もが安心して旅行を楽しめる環境を作ること、多様化する観光ニーズに対応し、誘客の促進及び観光消費額の増加を図ることとしております。

平成28年当時の課題として、旅行者側には観光施設等のバリアに関する情報が少なく、旅行を諦めてしまうケースがあること。

受け入れ側の課題としては、バリアフリー観光に対して十分な知識がないことにより、障害者を受け入れることに不安や抵抗感をもっていることと考えておりました。

そのため、旅行者への十分な情報の提供と受け入れ側の知識習得を目指し、本事業を開始いたしました。現在においても誰一人取り残されないというSDG'sの理念にも沿う事業になっていると感じております。

この事業の内容としては、まず県内の福祉関係団体や市町村をメンバーとする協議会を設置し、本県のユニバーサルツーリズム推進の基本的方向性を協議した上で、次の web サイトの開設、バリアフリー状況調査、セミナーの実施、という事業を進めております。

この各事業について順に紹介して行きます。三ページをお願いいたします。

まず、本県のウェブサイト、「ふらっと旅ぎふ」については、障害者、高齢者等のバリアを感じる方への情報発信力強化のために開設しております。詳しくは QR コードを掲載しておりますので、そちらから見て頂ければと思います。

この web サイトの主な掲載内容としましては、ふらっと旅スポット、こちらは、県内観光地のバリアフリー情報を掲載しております。

次にふらっと旅レポでは、次のページでバリアフリー状況調査としても紹介しますが、施設のバリアフリー状況の調査を行った調査員が、ブログ形式で観光施設の見どころを紹介するコーナーとなっております。車椅子ユーザー目線の記事となっておりますので、障害者や高齢者にとっても参考になる情報も多いのではないかと思います。

他にも随時最新の観光情報を追加したり、モデルコースを掲載したりしておりますので、是非ご覧ください。四ページお願いします。

先ほども少し触れましたが、県内観光地のバリアフリー状況を調査しております。

現在これまでに県内の 249 の施設を調査済みで、今年度も追加で 20 施設を調査する予定としております。

この事業の調査方法としましては、障害者が実際に県内の現地に赴き、施設のバリアフリー状況の調査を行っております。この結果を先ほどのウェブサイトに掲載しております。

次のページお願いします。

最後になりますが、バリアフリー観光に関するセミナーの開催実績になります。

本県では、平成 28 年度から観光事業者や行政の観光担当者を対象に、バリアフリー観光の知識習得を目指してセミナーを開催しております。

主なセミナーの内容としては、障害に関する基礎知識や国の進めるユニバーサルツーリズムの施策の紹介、また派遣の先進事例などを紹介しております。

これまで講師として温泉エッセイストビジットジャパン大使の山崎真由美さんや株式会社チックトラベルセンターハート to ハートの方、また車椅子トラベラーの三代達也さんを招聘してきました。R3 と R4 の動画はウェブサイトにも掲載しておりますので、宜しければご覧ください。

それでは、本県の取り組みは以上となります。ご清聴ありがとうございました。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。この件につきましては、ちょっとみなさんと議論する時間を取りたいなと思います。岐阜県の取り組みがなされて、その中でも岐阜県内でいろいろとやっておられるということになりますけれども、これについて皆さんから何かお聞きしたいことがございましたらお受けいたします。いかがでしょうか？

【中部地方整備局 竹内調整官】

国土交通省中部地方整備局の竹内と申します。この岐阜県さんのユニバーサルツーリズム「ふらっと旅ぎふ」の取り組みですけど、私も今日この会議に参加するにあたりまして、事前にちょっとこのサイトを拝見してきたんですけどね。今、県の方からのご説明があったようにすごく分かりやすい形でまとめられておりました。実際に車椅子で、障害を持った方がいろんな岐阜県の観光地に旅に行かれて、で、例えばその道路の歩道がどうであったとか、その施設を利用するにあ

たつてのちょっといいところだったり悪いところだったり、いろんな角度からとりまとめられていてですね。その都度その都度の写真も一緒に掲載されているということで、中でもちょっとびっくりしたのが、あの岐阜県内の鍾乳洞の掲載もあって、一応、車椅子で入っているんだけど、まあ、ちょっと狭いところありましたという掲載がありましてですね。本当に丁寧に取材がされていて、こういった取材調査が、先ほどの意見で出ましたけども、我々のこの名古屋市の日常的に使っている道路、そういったところでも、例えばそういったモニタリングみたいな形で調査されれば、どこが良くてどこが駄目なのかといったところがもうちょっと見えてくるんじゃないのかなと思って拝見しました。以上です。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。他にございますでしょうか？

じゃあ私から、こういう時は、成功事例ばかり紹介されるのが常ですけど、ちょっと意地悪して、こういうバリアフリー観光を実現推進していこうとするときに、課題というか問題というか、感じられておられることがありましたら教えて頂きたいんですけど、岐阜県のご担当者の方がかでしょうか？

【岐阜県国際政策課】

今ご質問いただいたバリアフリー観光について、何かこちらで障害を感じていることとかあるかっていうご質問に対してなんですけれども、質問の内容は合っておりますでしょうか？

【磯部座長】

はい、何か困ってることとかありましたらご紹介いただければと思います。

【岐阜県国際政策課】

はい、ありがとうございます。私たち行政職員でこういった取り組みの事業を考えると、やっぱり障害者の方がどういう気持でおられるのかっていうところを、うまく組み取れているのかどうかを不安に思っていますので、先ほどご紹介したように、きちりその協議会であったりとか、こういう場を生かして、障害者の意見であったりとか、そういったユーザー目線の事業にするように努力する必要があるというふうに感じております。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。

他いかがでしょうか。じゃ、山田さん、お願いします。山田さんにマイクをお願いします。

【社会福祉法人 AJU自立の家】

山田ばかり話して申し訳ありません。あの今岐阜県の方が言われたように、障害当事者目線でやりました、例えば車椅子。車椅子でもいろんな人がいる。例えばパラスポーツに行くような、やるような障害者、いわゆる条件の良い人ですね、が調査してもあんまり意味がない。だって彼らは歩くことについては健常者以上に速いんです。僕もそう。歩くことについてなんの不自由も感じてない。あの道路が蒲鉾になっても電動であれば全く問題ない。ただ脳性麻痺の手の悪い人、ちょっと手の悪い人で、手動の車椅子の人なんかは大変ですね。

そういうふうの一つの例、あるいは今は老老介護と言って、あの大変なね、お年寄り同士でどちらかが車椅子で、っていう例があったり。

あるいはこの間裁判で出たけど、LGBT の人のトイレの問題もあるとおもうんですね。だから、中部空港のように入り口に二つある。要するにユニバーサルトイレっていうのが二つあって、しかも中にベッドまで置いてあるっていうような形で流れるといいけど、場所の関係もあるよね。

必ずしもすべてあのようにはならないだろうけれども、どのレベルの障害者が調査したかっていうことはとても気になります。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。要するにどういう障害者が調査するのか、障がい者でもいろいろな多様性がありますからね。はい、それでは次の方おねがいします。

【特定非営利活動法人 愛知県精神障害者家族会連合会(あいかれん)】

愛知県精神障害者家族会連合会の江崎と申します。精神障害者のバリアフリーというと物理的な、例えば段差とかそういう物だけではないと思います。では精神障害者のバリアって一体なにであるのかを考えていきますと、障害が重い方は単独で観光地に行くということができないのです。お誘いしても、僕は行かないという返事が返ってきます。

どうして行かないのかということですが、例えば、観光地で買い物したり、入場したりということが、スムーズにおこなえないことがあります。そして、その支援を求められないってところがあります。

例えば、薬の作用が、精神障害者は向精神薬などを飲んでますので、ろれつが回らないとか、意思を表明できないってところがあります。だから、精神障害者が困っていることを言うことがなかなかできない。そしてそこまで至らない、軽い方は行くのですけれど、重い方はとても無理です。

じゃあ全く行かないかっていうと、例えば福祉施設の企画で、観光バスで、いつも支援して頂いている職員が同行すると行っていただけるってところがあります。私も同行して思ったのは、例えばレジで買い物する時にお弁当を買う時に箸が欲しいよと思って「箸」って言うのですが、レジの方は、箸のある場所に「箸」とかいてあるからわかるだろう、と相手にしてくれないのです。

そういうこともあって、職員等の支援者とともに、観光のご案内の方がうまく取り持って、ご支援をしていただくことが現実的なお願いになるかと思います。以上です。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。岐阜県のご担当者にはちょっと荷が重いかもしれませんが、今の意見はまとめますと、同じ車椅子の方でも、簡単には手動と電動とか、また色んなタイプの方おられますよ、もちろん、視覚障害で精神障害もいろんな方もおられます。

そういった中で、バリアフリー観光というのを進めていくんですから、例えば多様性とか、いろんな方々の体験とかご意見を、いかに集めるかということなんですけど、多分努力されると思いますが、どうでしょうかということで、今後の課題かもしれませんが、何か一言お願いいたします。

【岐阜県国際政策課】

岐阜県です。ご質問ありがとうございます。

今ほどいろんな障害の方がおられて、多様な意見をついていうお話し頂いたと思うんですけども、こちらとしても障害の多様性については把握しておりまして、お話に出ていたようにハード面の整備であったりとか、その人手的な問題っていうのは、すぐには解消できないところもございまして、心のバリアフリーっていうところで、皆さんのおもてなしの心で、サポートであったりとか、そういった悩みの解消をお手伝い出来ればいいかなというふうに考えております。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。私の意見ですけど、先ほどブログとか、本当にいろんな方々のご意見を、うまく出す、お伝えするというのはやっぱり参考になってくると思いますね。その辺、決まったパターンじゃなくて、いろんな方々の工夫とか、そういうのを表に出していただくと役に立つかなと思ってますので、それを期待しております。今日はどうもありがとうございます。

岐阜県の取り組みはこれまでにさせていただきまして、だいぶ時間が経ちましたので、休憩時間に入りたいと思います。十分程休憩させていただきますので、3時20分から再開させていただきます。

【磯部座長】

よろしいでしょうか。お時間になりました。皆様お揃いだと思いますので、議事を再開したいと思います。ここからは主に意見交換の時間とさせていただきます。今回テーマとして観光を取り上げて、一つ目のテーマが体験型観光、2つ目がその観光に関するバリア情報という話でございます。

まず、なぜ体験型と付けたかと言いますと、同じ観光でも例えば、景色、風景を見るだけだったら、今テレビで充分だなと個人的に思ってるんですね。いろんな番組もありますし、お散歩してる番組もありますから、まあこれで充分だなと思ったりする。でも体験型というのは、例えば今夏祭りのシーズンです。そうするとそのお祭りを見るんじゃなくて、お祭りに参加するということがありますが、いろんなお祭りの参加の形があると思います。

そのほか、たとえば焼き物、壺とか茶碗とか、ああいうのを作る産地にいきまして、実際に作ったり、絵付けしたり、現地の先生に教わって、まあ上手いか下手かは知らないけど、やっぱり自分で作ったら楽しいじゃないですか、そしてそれを持って帰ったらね。まさにそれが体験型観光です。結構、これがハードルが高いんじゃないかなと思ってますが、やっぱりやってみたいですよ。

単純に言えば、今夏ですから、海水浴に行って泳ぎたい。いろんな方々が、うまく泳げる、水遊びできるようなことができるのかなとか。そんなのを含めて、小さな体験から大きな体験いろいろあるんでしょうけど聞けたら良いと思っています。

後半は、やっぱり情報っていうことがあります。先ほど山田さんから出ましたけども、いろんな情報が欲しいんだけど、なかなかない。多分、日常生活に関する情報というのはだいぶ出てきてるといえるか、逆に言うと、繰り返し体験することによって、自分でだいたい情報をつかんでいくけれども、観光っていうのは、例えば一回だけとか、初めて行くとかなので情報集めて難しい。行った日に帰ってくるということがあったりして時間もなくて、結構難しいなあということですけども、情報はやっぱり欲しいなあということで、あえてテーマにさせていただきました。

まずはテーマ1の体験型観光、主に資料7でご意見もらっておりますけれども、補足とかさらにご発言したいことがございましたらお願いしたいなと思いますが、いかがでしょうか？ WEBの方からこの資料7に対するご質問でも構いませんが、いかがでしょうか？

【福井市ボランティア連絡協議会】

福井市ボランティア連絡協議会の山田と申します。体験型観光についてのテーマで今お話しなさっていると思うのですが、先ほどの岐阜県のユニバーサルな取り組み「ふらっと旅ぎふ」をQRコードで読み取りましたら、ものすごく内容が濃くて、先ほどあちらの山田さんがおっしゃってたような、福井県には乏しい福祉関係の事がいっぱい載ってるので、これを参考に福井県もできたらいいなあと思いました。

今、恐竜博物館の横に新しい施設ができました。体験型っていう形の一つにクリーニングの体験ができるらしいんですね。わたしはまだ行ったことございませんけれども、まあそんな形で観光地を皆さんに楽しんでいただくっていうことはいろいろ考えていると思っております。各地でもいろいろ工夫していると思います。

今日ここに来るときにしらすぎでまいりましたけれども、隣に座っていた方が初めは日本人だと思いましたが、台湾から来たような感じだったんですね。言葉を耳にした時にそう感じました。

で、私、英語が喋れませんので、スマホでセカイフォンというアプリを入れてますので、それで日本語で話すと英語に変換してくれるのです。反対に英語で話すと日本語に変換してくれるのです。そういうアプリを使ってちょっとお話をさせていただいたのですけれど、外国で観光する部分においては、非常に有効な手段だなと今日感じました。以上です。

【磯部座長】

今はいろんな道具がありますのでね。今の恐竜の化石を彫るのっていうのは、いろんな方が参加できるのか、ちょっと参加しにくい方は参加しにくい状況があるのか、どうですか？

【福井市ボランティア連絡協議会】

今は混んでいますので、予約という形になっていると思いますけれども、先日聴覚障害者団体さんが、どれだけ聴覚障害者に対応しているかっていうことで実祭に伺いました。静岡県の聴覚障害者団体さんがいってらっしゃるような手話を付けるとか、字幕がつくところまではないですが、いろんな障害の方にも対応して、クリーニングをする。発掘したもの、小さい物をきれいに、研究者がやるような内容を実際に真似事みたいにできるようになってるんですね。それは、どなたでも子どもさんでもできるって聞いております。

【磯部座長】

はい、なかなかいいですね。要するに恐竜の骨をほじくり出すようなまねごとができるということですね、いいですね。ありがとうございます。他にないでしょうか？はい、中井さん。

【NPO 法人 子育て支援の NPO まめっこ】

NPO 法人子育て支援の NPO まめっこの中井です。いくつか意見はすでに出させていただいているんですけど、先ほどから磯部先生がおっしゃっていると思うんですけど、観光ってなると、やっぱり普段全く行ったことがない場所に当然観光にはいくので、どこに行けば、どんな情報があるかが分からないっていう前提でいろんな情報を出していただきたいなというふうに思っています。

あとは、皆さんもそうだと思うんですけど、旅行の時って通常の移動よりも荷物がかかなり多くなって、通常で移動が難しい人たちは、さらに、特に子育て中はどうしても荷物が多くなるので、通常よりも移動が困難であるっていうことをちょっと感じていただいているといいなと思います。体験している間、多分その観光施設で荷物は預かって頂けると思うんですけども。

子連れで旅行に行くとなるとトイレばかり探していたなとか、そんなこと思って、よくトイレの話を見せていただくんですけど、ここに書かせていただいたとおり、最近、本当に男性の育児参加が皆さんご存知のとおり随分進んでいてですね。観光の時にもパパがトイレに連れて行くとかっていうことが普通にありえることだと思うんですね。だけど新しい施設はそれでも男性トイレにベビーキープがあるんですけど、古い施設だと、男性トイレには子供をちょっと座らせておくようなベビーキープがなかったり、オムツ替えシートがなかったりということが多かったりするので、そういった施設がどこにあるのかが分かると良いと思います。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。体験する場所での話ですね。ありがとうございます。ほかいかがでしょうか？では村井先生から何か、体験型観光でありますでしょうか。

【村井先生】

日本福祉大村井です。資料7を拝見してまして、名古屋市障害企画課さんが、利用の難しい方がいらっしやったら断るんじゃなくて、なんか良い方法をと書かれてていますけども、事業者さんも充分ノウハウをもってないことがやはりありえるので、なにかその事業者さんを支援できるような、支援っていうか相談とか、もうちょっと踏み込んで具体的に、こういうふうなことができますよとか、こういう所に連携すると、うまくつながっていきますよみたいな、なんかそういう体制があるといいかなと思いました。

なかなか事業者さん、普段のお仕事、いろいろ大変なところがあるので、やっぱりそれをなにかサポートできるような体制があるといいんじゃないかなと思います。そうすると、多分、事業者の方もできないとか難しいとか思っていたとしても、実はできるっていうことも多いと思いますし、そういうふうな体制っていうことが、第一段階で断らないっていうことになっていくのではないかなと、読んで思います。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。断り方の前に工夫がいる、まずは工夫していただいて、それでも無理だったらお断りするんだけど、じゃあその楽しみ方をどうやってお伝えするかということかなと思います。お互いにちゃんと理解してないと、杓子定規にルールがあるからできませんっていうのは非常に厳しいお断りの仕方かなあと。

よくあるのは、遊園地のジェットコースターとか。確実に体の大きさとかでできる、できないがはっきりしておりますけども、それはそれで計りやすい基準なんですよね。体重とか身長でできる、できないじゃなく、障害があるかないか、また、いろんな障害がある方たちにとって、できるかできないかっていう話を、誰かどうやって判断して、どうやってお伝えするかっていうのは結構難しいかなと思ひまして、あえてこのテーマを設けたんですけど、もしみなさんからお伝えするとしたら、こういうことならできると、完ぺきなことを要求したいんじゃないくて、ちょっとしたまねごとができれば充分だというようなこともあるかもしれませんが、その辺の何か良いコミュニケーションができてくると、体験型っていうのは満足度が上がってくるかなと思ひましたけど、何か関連してご意見ありますか？よろしいでしょうか？

だったら二番目のテーマの観光地におけるバリアフリー情報ですね。体験と関係あってもいいんですけども、まあ、幅広くして情報提供ですね。それをどうやったらいいか、とにかく情報をどうやってとるかっていう。じゃあお願いします。

【特定非営利活動法人 愛知県精神障害者家族会連合会(あいかれん)】

愛知県精神障害者家族会連合会江崎です、私自身、愛知県稲沢市の障害者連合会にも入ってまして、そこでは三障害の団体で構成されており年に1、2回観光の企画をしています。ちなみに今年の行先は奈良公園と大仏殿ですが、企画のポイントとしては、トイレと雨の時どうするかと食事をどうするかっていう3つのポイントを踏まえながら企画しています。

トイレは身障者に対応しているかを確認しながら、パーキングエリアとか、そういうところをコース選定して計画を練ります。食事だと、視覚障害の方は、熱いものはだめで、火傷の可能性があります。車椅子の方だと、普通の一般席と比べ間隔をあけ、さらに出入りのスペースを考慮したレイアウトを、食堂の担当にお願いしています。

それから、雨天となった場合はどうするかというと、車いすに乗っている方は雨が降るとすごく

大変なのです。「みじめ」という表現をしていいのかわかりませんが、車椅子用のカップを用意しますが、せっかくの観光が、ぬれながら観光するっていうことになるのです。だから「上屋」ですね。上屋のあるような、たとえば雨がしのげるホールをあらかじめ見つけておいて、散策してくださいといった企画を立てるようになっております。

以上、観光の関係者の皆さんにお願いとして、雨の時はここでお待ちくださいっていうようなことを情報伝達していただくとありがたいかと思います。それから食堂については障害者への配慮をしますっていうことを謳っていただけるといいと思います。以上です。

【磯部座長】

トイレの話と、食事の話と、更に雨の日。雨が降った場合、aプラン bプランをたてておいて、aプランがダメだったらbプランに切り替えるための、その辺のいろんな情報が欲しいねというご意見頂きました。ありがとうございました。他いかがでしょうか。

おそらく、いろんなところで情報提供はしてるんでしょうけども、情報提供する、日本語で言う媒体、英語でいうメディア、どんな方法でそういう情報提供をしていこうかなということなんでしょうね。さっき山田さんから紙の時刻表を見せてもらいましたけど、これも情報提供なんですけども、私も昔はよく時刻表を見てましたが見づらいですよ、やっぱり字が小さい。そうすると、日常生活ですと、最近は、乗り換え案内というのはスマホで、出発地どこ、目的地どこで、どこで乗り換えとかいうのを見ている。それは確かに便利なツールですから、そういうのが良いのができたらいいなと思ってます。

さらにいろんな情報が載るとね、私の条件を入れると、あなたこっち(の経路)の方がいいですよとできたらいいなと思ったりするし、そういったいろんな情報機器も大事だということ。さきほどの岐阜県さんの話で言うそうですね、いわゆるブログなんかで、体験者の話をやっている。いわゆる口コミの電子版ですね。口コミっていうのは、何かといたら、公式な意見を聞くんじゃなくて、体験した人からちょっと聞くっていうわけですね。これ結構皆さん参考にされるんですね。特に親しい人から、信頼する人からの話、また、同じような障害を持ってる方だったり体験談を聞くとすると、それも信用性・信憑性が高くなる。こーいのをうまく集約して、どういった方にお伝えしていくかっていう、そういった時代になってきたのかなと思いますね。ですから、いろいろ皆さん工夫されてるかなと思いますけど、そういった意味でもどうやって伝えるか、どうやって情報をもろうかっていう話で、なんかありますでしょうか。

【NPO 法人 子育て支援の NPO まめっこ】

NPO 法人子育て支援の NPO まめっこの中井です。私が運営している法人は、妊婦さんから0123才、主に未就園児の親子さんが遊びに来る施設を運営しています。名古屋キッズステーションとって、ロフト名古屋はもう閉店しちゃったんですけど、その6階にある名古屋市子ども子育て支援センターの運営も行っているんで、名古屋に観光に来た方が情報を求めて当センターにいらっしゃることが結構あります。名古屋子育て、名古屋こどもとかで検索すると、最初の方に出てくるみたいです。なので、そういう観光客の方とか、外国人の旅行客の方とかに名古屋の遊び場情報をお知らせすることがあるんですけども、まずは観光客の方は自分のいる場所と遊びに行きたい場所の距離感っていうのが分からないので、エレベーターからでてきてすぐのところ、名古屋市全域の大きな地図が貼ってあって、そこに主だった観光スポットの写真をつけて、子供と一緒に遊びに行けるスポットみたいな感じで大きく表示をさせていただいています。

あとは、観光客よりは長期滞在の方だったり、たまにご主人の出張についてきていらして、1週間とか一ヶ月なんか名古屋に滞在される方もいらっしゃるので、そういう方だったら身近の長期滞在される施設・ホテルとかから近い遊び場もご案内をさせていただいてるんですけど、そうすると、自分のところにどれだけ情報があるかっていうことと、その情報の精度がどのぐらい

あるかっていうことと、あとは実際に自分がその場所に行ったことがあるかどうかというので、差し上げられる情報量が全然変わって来たりします。一定程度、最低限の情報っていうのは16区全部把握できるようには務めているので、子育て支援の現場で言うとそんな感じですよ。あとはキッズステーション近隣の子連れでいっしょに行けるランチのお店とか、よく聞かれる情報は、その都度がスタッフが調べて一覧にしていたりとか、お好みに合わせて、支援に合わせてご案内ができるっていうふうにはしています。

それが大きい名古屋市全体のところなんですけど、北区の方の小さい遊び場の方では、主に口コミ情報の掲示で、北区の地図が貼ってあって、お勧めの遊びスポットみたいな感じで、来ていただいた方が「ここよかったよ」「何回もここあそびにいったよ」「家族で行くならここがおすすめ」みたいな感じで、ペタペタペタ付箋で貼っていけるようにしています。

基本的に自分が旅行に行く時は、ネットで検索はやっぱやりませよ。あとはおっきい駅の観光案内所は比較的いきますけども、なかなかそういう場所はチラシを置いてあるんですけど、人がいなかったり、人に聞いても一覧表ばいって渡されたりっていうことがありがちなので、なかなか自分が期待してるような情報は得られないなあっていう感じが正直なところなんで、そこはちょっと施設の違ひかなっていう部分もあるんですけども。

私たちが心がけているのは、聞かれた方に対して「どんなことがしたいですか」とか、「今おいくつですか」とか、「どのぐらいの距離だったらいけますか」とか話をしながら、じゃあこの辺だったらいいかなって感じをおすすめするんですけど、そういうことが標準化されると良いなと思います。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。いろんな苦労されているなという。情報を自分たちでまとめて。中井さんのような組織は多分、大事な組織であって、旅館でもなく、交通事業者でもなく、ましてや遊園地の関係でもなく、第三者という立場で情報収集して、いろんなサービスを提供していますね。だからそういう組織がたくさんあってもいいなと、そのなかで旅行会社、旅行を斡旋する会社というのがしっかりやっちはいるんでしょうけど、なかなか本当にそこまでいろんな情報持っているかなというのがちょっと気になることだと思ってますね。はい、じゃあお願いします。

【特定非営利活動法人 愛知県精神障害者家族会連合会(あいかれん)】

今の課題ですね。障害者のための情報がですね。一般の方もですが、障害者の方もなかなか難しいので、私どうしているかっていうと、障害者への対応をする旅行社っていうのも実は世の中にあるんですよ。で、そういうところに頼むと、障害者のための情報は持ってますので、そういう旅行社にお願いするっていう手があると思います。ここで皆さんにどこどこだよっていうのは言えないんですけども、そこに頼むと、障害者のためのバスのツアーを組んでくれますっていうのが実際にあります。リフトバスっていうのがありまして、旅行会社がバス会社と組んでまして、そのバス会社のバスをまわしてくれるようになりまして。車椅子の方がリフターがあってバスに入れるというバスです。観光バスって高さ、高低差がありますから、フラットじゃないんで。そういうバスの申し込み料金もそう高くないですね。だいたい、例えば12万円の大型バスだったら、2~3万円高いんですけどね、一台当たり。そういうところを利用されると良いと思います。以上です。

【磯部座長】

はい、旅行会社ですね。旅行を斡旋する会社、その充実はこれからも大事だなというふうに思いました。あと皆さんにかありますか？お願いいたします。

【社会福祉法人 愛知県盲人福祉連合会】

はい、愛知県盲人福祉連合会の金子と申します。視覚障害者の団体であります。で、私ども視覚障害者というのは、情報に不足していて、以前は、視覚障害者よりも聴覚障害者の方が気の毒だなと障害者ながら感じておりましたが、今いろいろ機械の発展でスマホが登場したおかげで、聴覚障害の障害における不便さというのは相当解除されて、今現在でありますと視覚障害者が情報で置いてきぼりをされている状態です。

で今、私どもの会で推し進めているのは、スマホを自由自在に操作できるように講習会をどんどん増やしております。このスマホっていうのはタッチパネルなので、なかなか視覚障害者がそのポイントにタッチするっていうのは難しいわけですよ。で、その、スマホ利用することですばいぶん世の中変わってくるんでね、今若い人たちはわりとそういった新しいものに順応する力を持っています。まあ、興味があるものですから、おもちゃ気分で触っているうちに覚えるという風なんです。我々高齢者はなかなか置いてきぼりされてるんで、いまだにガラケーに頼っております。ガラケーのいいところっていうのは、ボタンが浮き出てるというところで、タッチをする間違いが少ないということで、なんとか情報得ております。

で普段は私ども一般の方と違って、その一般の方に比較すると情報っていうのが大体 8 割が視覚で賄っているわけですね。その残りの 2 割が我々視覚障害者の情報網なんです。だから、その残った五感と言われる人の感覚の視覚を取った、その残りの四覚で情報を補っているわけですから。実際に言うと音、それから匂いが主な情報源なわけです。だから街なかを歩いてても、音のする方で何があるなっていうことを判断します。良い匂いがするなあと、こっちにパン屋さんがあるとか、いろいろ判断するわけですよ。ですが、今、小さな町は皆様ご存知だと思いますが、シャッター街になっている町が多いんで、どうしても方向を確認する手立てが少なくなってるんですよ。

わたし、あのできるだけ視覚障害者も一人で街を歩けるようにっていうのを目標に、仲間にすすめております。私も普段は一人で白杖一本か盲導犬を連れて歩いてます。盲導犬もいいのですが、盲導犬の場合はもう大体地図が飼い主に分かってないと盲導犬が自分で勝手に歩くっていうことはできませんので、利用者が、飼い主が方向を判断して盲導犬に指示を与えてようやく動くわけですから。一番良い例が、信号のあるところで、まあ音響信号のない場合赤なのに盲導犬が動いたりすると困るので、盲導犬の場合はもう赤というか、命令をかけない限り動かない。命令をかけてようやく動くんですけど、あの一般の歩行者が赤でもぱっぱと渡っていっちゃうとこっちも同じように判断して、GO っていうと渡っちゃうわけですよ。これはものすごく危険なことなんで、皆さん、一般の方がやっぱりルールは守っていただきたい。

視覚障害者の観光となると、やはり景色を楽しむということがなかなか難しいわけですが、難しいから行かないっていうわけじゃないんです。山なら山へ行っって、そこの空気のいいのを吸って、ああ良いところに来たなっていうのを味わうわけですね。あと海ならまあ、潮風にあたってあ、潮風の匂いがするなっていうのを判断するわけですね。

一番、視覚障害者が楽しむのは、ミカン狩りとか、今なら葡萄狩りとか、収穫を楽しむっていうのが結構あるんですよ。一番健常者と比較して大層にできる、それ以上にできるのは潮干狩りです。皆さん潮が引いて貝のある所に穴が開いているのを見てやられると思いますが、視覚障害者は水の中に入って手探りで大きいのをとってきます。というようなことがありますので、やはりあのいろいろな楽しみ方があります。

一番つまらないのが水族館。水族館はもうガラス張りでも何も見えませんので、まあそれでも視

覚障害者は行きます。何を楽しむかっていうとイルカショーとか、いろんなショーを楽しみに行きます。

そんなように障害があっても楽しみ方はいろいろあるものでね、できるだけ一人で歩いて、それこそ電車に乗ったり、バスに乗ったりする。意外と多いのが、今世の中でいう「鉄ちゃん」。鉄道マニアね。いろんな鉄道に乗りたい。それはものすごく興味を持っています。だから同行者とでも、全盲同士でも行きます。そんな感じで視覚障害者は旅行を楽しんでいます。またよろしく願います。以上です。

【磯部座長】

いろんな楽しみ方があるということで、良い勉強になりました。ありがとうございます。じゃ、石山さんの方から。

【NPO 法人 UD ほっとねっと】

四日市の NPO 団体 UD ほっとねっとの理事長の石山純と申します。先日、伊藤順子という前任者から代替わりして初めてここへお邪魔しました。

本日お伺いしまして、初めて聞いてまして、ハードはもう徐々に良くなっていくんだろうなと。予算をかけて、iTO の発展などで、ハードはどんどんどんどん良くなっていくのかなという風な安心感を得たんですけども、やっぱりソフトの部分っていうところで、バリアフリーですとか、ユニバーサルデザインの考え方についての啓発っていうのを、全く今まで理解が無い、私は関係ない、UD なんて関係ないわっていう風な方々を巻き込んで、知って頂くということがとても大事なのかなっていうふうに、改めていつも思ってることなんですけども思いました。

私たち UD ほっとねっとは、ユニバーサルデザインという観点から、視覚障害の方、聴覚障害の方、高齢者の方、妊婦さんの方、外国人の方もあらゆる方々が会員になってまして、60 人ぐらいの会員でいろいろと、バリアフリーになっているか、なっていないかとか、私たちこれがいい、これが悪いとかっていう、いろいろな意見が飛び交う中で、やっぱり相手の立場に立つっていうことが、一般の人たち、スタッフ一人一人の方が、先ほどちらっとありましたが、最初に「そういうことをお断りしております」っていうような、マニュアル的にばんと断ってしまうのではなくて、やっぱりひとりひとり残さないというか、あ、この方のためにはどういうサービスができるのかなっていう部分で、全く UD について関係ない人たちでも、店員さん、スタッフひとりひとりがそういうことをと知っていくということが、これからの大切なことかなというふうに思います。

あと心のバリアフリーという言葉をよく聞くんですけども、なかなかちょっと危うい言葉なのかなっていうふうに思っていてまして、車いすでなんか行きにくいところあったら声かけてくれたら私たち手伝うよっていう健常者の傲慢かっていうのがチラッとそこに見え隠れする。

車いすの方だって、誰にも話しかけられず話しかけたくない(こともある)。自分で登りたい、あるいはそういった権利っていうものがあるわけで、その自分で登りたい自分で登りたくない含めて、何で人に願いを請うて行かなきゃいけない。それでいちいち声かけなくちゃいけないの？電車乗るのにずっと隣について行かれなくちゃいけないとか、いろいろなご不満を私たちが耳にしながら感じておりますので、その心のバリアフリーというの、やっぱりユニバーサルデザイン、まあ UD ほっとねっとだからではないんですけども、最初から使いやすいとか、選択しうる、人としてその何かを選択する自由っていうのは、やっぱりその人の尊厳を守るっていうところで、一番基本的な部分なのかなというふうに感じておりますので、そういったところをデザインも計画の段階から皆さんが取り込められる、こんな世の中になっていけばいいかなというふうに思いました。ありがとうございます。

【磯部座長】

石山さんありがとうございました。まとめてもらって恐縮です。ありがとうございます。村井先生からもご発言をお願いします。

【村井先生】

はい、日本福祉大の村井です。観光におけるバリア情報の提供ということですけども、観光地というか、その場所のいろんなバリアの情報とか、バリアフリーの情報とか、WEB や現地で得られるんですけども、どこどこには何があるとか、どこどこでは何が提供できるとか、そういう情報はいいんですけど、(どういうふう)にそこに行けるのかっていうのが、やはりちゃんというかなと。

たとえばここはちょっと車通りが多いとか。そういうきめ細かな情報、その場所の姿が具体的に浮かんでくるような、物理的な立体じゃなくて、情報が立体的に浮かんでくるような、そんな情報提供ができてくるといいのかな、というように思いました。

あとは災害時の情報をどうするのかっていうのも一つあると思ひまして、ただ、災害は今この瞬間起こるかもしれないですし、数十年起こらないかもしれないです。そういう情報の提供とか情報整備にどれぐらい優先度があるかっていうのをいろいろ考えなきゃいけないんですけども、とは言っても見知らぬ場所に行って災害に遭ってしまったら自分はどうすればいいのかっていうのは、やっぱり何らかの対応が今後必要になってくるかなとちょっと思ひまして、災害時の安全とか、災害時にどういう行動を取ればいいのかとか、どういう支援があるとかそういう情報も必要になってくるのかなと思ひました。

【磯部座長】

はい、ありがとうございます。本日もこうやって、観光についてのいろんな議論をさせていただきました。いろんなことが見えてきました。やっぱりいろんな楽しみ方があるよねという話が一つで、それに対して適切な情報が欲しいなあと。

特に観光というのは、いろんな要素の組み合わせなんですね。行きたい場所と、そこへ行く交通手段、またはその途中の休憩場所、いろんな要素の寄せ集めでやっと成り立つわけですから、そのそれぞれの情報の出し方、信頼性、それがほしいなあとということでございますので、そういった努力がこれから必要だということもあります。

あとはいかにそれを適切に情報発信していくか、そういうのが大事だなと思ひましたので、今日の議論を気にしながら、また色んなことをチェックしながら、皆さんと一緒に確認をできたらいいなと思ひます。

観光はここまでにして、その他というかたちになりますけれども、せっかくの機会ですから、ここで参考資料2で、困りごとっていうことですけども、ここに書かれた以外のことで、何かこの場でご発言があれば、お受け致しますがいかがでしょうか

【社会福祉法人 AJU自立の家】

ひとつだけ。例えばこないだ福井行った話したと思うんですけどね、(そのまま乗れる)すばらしいトラムができててですね。これは本当数がまだ少ないんですけどね。タクシーがあれだけ補助金だしてるんなら、もっとそういうところにも補助金出して欲しいんですけどね。すべてが、我々が乗れるトラムになるといいな。福井にも綺麗なのがあったの。でもこれどの時間帯に走るのか、これも分からないわけです。なかなか難しいなと思う。トラムについての補助をタクシーなみにするといいなって思ひます。

【磯部座長】

路面電車、新しいのできたんだけど、いい車両がまだ少ないなと言うことで、それに乗りたいたいんだけど、なかなかそのタイミングが合わないから、バスも同じですけど、タイミングが合う合わない

いで非常に大変な思いをしているというお話です。それはまた事務局の方で整理して頂ければと思います。ありがとうございます。ほかよろしいですか？はい、では全体を通して村井先生の方からご意見お願い致します。

【村井先生】

日本福祉大学の村井です。全体を通してということで、移動円滑化も色々な現場の目標達成の状況とかありましたけども、達成していくことは大事なんですけども、それが本当に達成しただけなのか、それが活かされていくのか、そこまでやっぱり考える必要があるかなと思います。作ったら終わりではなくて、それによって整備されて本当に活かされているのか、そこで問題が何か起こったらちゃんとフィードバックしてより良いものになっていってるのかっていう、そういうのがやっぱり見えてくる必要があるかなというように思います。

あと、バリアフリー体験とか、いろいろなことが言われている中でも、バリアフリーになることが、みんな楽になるというか、みんなにとって幸せになるっていう姿勢がやっぱり大事なかなというように思います、昔から言われていることですけども。例えば、階段上り下りとエレベーターで比較して、やっぱりすごく楽だね、便利だね、荷物が多くてもいいよねっていうような。車椅子の体験をして、大変だなとか、そういうことを感じることも必要だと思うんですけども、それを越えて、バリアフリーが普通にあるっていうようなことを感じられるような体験とか、そういうように持って行く必要があるのかなって思いました。

【磯部座長】

はい、どうもありがとうございます。この会議は移動円滑化評価会議という形になっております。なかなかこの評価というのが難しいところがございます。まだ足りないものが結構あるので、とにかくまだ新しいものを作りたいとか施設を直した取り組みをご紹介といった形が多いんだろうと思いますけど、さっき村井先生の話にもありましたが、そろそろ本当にこれで良かったのかどうかっていう話をしていけないのかなということがあります。

そういう意味で、今回 JR さんの方から(ご報告のあった)、バリアフリー料金制度、ちょっと私のバリアフリー料金制度という言葉があまり好きじゃないんですけど、まあ名前は置いておいて、まず、この中身は素晴らしいなあと思います。何かといたら、全ての人、全ての乗客からお金を頂かってことなんです、バリアフリー整備のために。

今回特に例として出てきたのが、ホームゲートというドアです。確かにあれはすべての人の安全を守る。そういう形なんですけども、とにかくエレベーター、エスカレーター、トイレなんかも入っているという話ですね。ですから、私には関係ないわってことではなくて、みなさんに関係する話だということで、こういう制度ができたという話だそうです。これは 20 年前に、考えられなかった話なんです。20 年前はどっちかというね、(バリアフリーは)障害者のものだみたいな考え方でした。でも実際、色々な人が使ってらっしゃるし便利だとやっとならわかってきたので、乗客の方も分かっていただけかなと。

あの、私なぜバリアフリー料金という名前が嫌かという、この名前によって「俺たちは関係ないんだ」っていう方からいろんな意見があるようなので、ちょっと気になってるところではあります。とにかく皆さんのものだという風になってきたかなと、そうやって評価できたことによって、そういう制度ができたことだと思いますんで、今回観光をやりましたけども、観光も本当にみんなが楽しめる観光ってなんだと、楽しみ方は色々なんだけど、みんなが楽しめるという形になってきたらいいなと思いますんで、それをどうやって評価していくか。そういう風になっていたらいいかなと思っていますので、まあこれからちょっと課題が多いかなということで、発言を終わりにさせていただきたいと思います。

今日みなさんからご意見をいただいたものに対して、事務局の方で、回答が必要なものはまとめさせていただいて改めて回答させていただきたいと思います。以上で本日の議題はすべて終了したと思いますので、進行を事務局のほうへお返ししたいと思います。

【事務局】

はい、磯部先生、ありがとうございました。議事4その他として事務局より連絡事項でございます。本日の会議でいただきましたご意見につきましては、後日、中部運輸局のホームページにて掲載させていただくほか、国土交通省本省で開催されます移動等円滑化評価会議へ報告させていただきます。回答につきましては、後日改めて皆さんへお示しできればと考えております。本日はご出席いただきまして、誠にありがとうございました。WEBの皆様もありがとうございました。最後に、中部地方整備局企画部環境調整官竹内より閉会の挨拶をさせていただきます。

【中部地方整備局 企画部 環境調整官】

ただいまご紹介いただきました、国土交通省中部地方整備局環境調整官をしております竹内と申します。本日は移動等円滑化評価会議中部分科会の閉会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。まず本日この会議にご出席いただきました皆様方、長時間にわたり大変お疲れ様でございました。また、本日の議論を大変有意義なものとして頂きました、会長の磯部先生、また村井先生、そして本日ご参加の皆様方に改めまして、心より御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

今回のこの中部分科会でございますが、各機関からの取り組みの報告ですとか、ご参加の皆様からのご意見、ご質問など非常に熱心かつ充実した会議であったかと思えます。今後、わが国の、バリアフリー化を進めていく上で、今回のテーマがいかに重要かつ内容の高いものであるかということをあらためて確認した次第でございます。

本日ご参加の皆様方におかれましては、各地域各団体に戻られましたあと、本日の議論をぜひ生かして頂きまして、ご紹介いただければと思います。最後になりますが、今回の会議開催にあたりまして、格段のご尽力をいただきましたご出席の皆様をはじめまして、多くの関係者の皆様に心より感謝を申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

【事務局】

以上をもちまして、移動等円滑化評価会議中部分科会を閉会いたします。本日は長時間ありがとうございました。気をつけてお帰りください。